

平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

当園は、仏教の知性と慈愛のもとに、幼児に良き教育環境を与え、明るく、のびのびと楽しい体験を通じて、社会に生命を生かす、自主的精神に充ちた心身共に、健やかな人間完成をめざし、仏の心として愛育助長したいと念うものです。

1. 元気なつよい子ども
幼児の心身の調和的な発達を図り、健全な心身の基礎を養う
2. きまりを守れる子ども
基本的、生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養い、道徳的芽生えをつちかう
3. のびのびとした創造性豊かな子ども
のびのびとした表現活動を通じて、創造性を豊かにする

II. 今年度の重点目標

- 教職員の資質向上
- 安全管理体制の充実
- 保護者への発信
- 長時間保育の検討

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 教職員の資質向上	教職員間で意見交換の機会を持ち、研修や講習会で学び得た情報や知識を共有し、子どもたちとの関わり方を深めていく。	A 今年度は昨年度に比べて、どの教職員も概ね園外研修へ参加出来た。研修参加によって新たな知識や手法を吸収し、さらに既存の知識も深めて広がりを持たせ、歌遊びや手遊び等をその後の保育に実践出来ている。各自が興味のあるテーマの研修に参加し、学んだ知識を分かち合うことは、互いに他のクラスにも関心を持つことにもつながっている。お遊戯会や発表会などでは他のクラスの保育を見て、行事後には振り返りを行い、保護者の対応や子どもへの接し方を相談して次に繋げる取組みが出来た。
2 安全管理体制の充実	教職員による点検やチェックを定例化し、気づいた箇所の修繕に努め、安全な生活環境の整備を行う。	A 日頃から教職員が交代で点検チェックを行い、危険と思われる箇所は修繕するように努めている。施設設備に関しては、互いに教職員間で話し合いチェックしあう事で未然防止につなげる意識で取り組んだ。今年度は台風の被害も発生したため、以降の点検は教職員皆で時間をかけて実施できた。経年が見られる遊具や木製品などの備品は特に念入りにチェックを行い、窓ガラスなどは必要に応じて専門業者に点検依頼を行うなどの処置を行った。職員間でのチェックの基準や質のばらつきを、定例化することで統一を図っていく。
3	教職員全員が非常時の対応手順を把握し、地域と連携した訓練の実施に向けて理解を得ていく。	B 月に1度避難訓練を実施し、教職員間で意見交換を行い振り返り確認しあうことが出来た。防災カードを作成し、保護者への連絡時のツールとして使用し、また災害発生時に持ち出す物をリスト化して共有している。避難時は園庭に集まって避難経路を確認し、小学校までの避難経路を実際に子どもたちと歩いて実地訓練を行った。今後は地域で小学校や消防署等、あるいは外部機関との連携を密に行い、災害に関するあらゆる情報をさらに共有すべく取り組んでいく必要がある。津波、地震時等の状況に応じた避難方法を細かく定義し、様々な時間やシチュエーションで行うなどの工夫をしていきたい。

平成30年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況
4	保護者への発信	保護者への速やかな情報発信を引き続き心掛けるとともに、保護者の意見にも耳を傾けていく。	A 災害発生時などの緊急時は保護者へ一斉メールで情報案内し、加えて電話連絡も行っている。また、園のホームページにも掲載し、速やかに保護者へ知らせる手段をとっている。また、毎日の登降園時に、教職員は保護者と会話をする機会を極力持つように心掛け、各家庭との連携を図る意識を持って努めてきた。ただ、園バス利用の保護者と接する機会がやや少ないと感じられるため、園の保育方針やねらい等についても保護者の方に分かりやすく伝えていく工夫をしていきたい。保護者への情報伝達は正確さと迅速さが求められるため、今後も継続取り組みを行っていく。
5	長時間保育の検討	保護者ニーズを汲み取り、また子どもたちの安心感につながる内容へと工夫を継続していく。	B 園では保護者が子どもを預けやすい環境を整え、子どもたちに安全な環境を提供するという観点を念頭に置いてきた。教職員との話し合いを重ねて、通常保育及び夏季保育の預かり保育の日数を増やし、長時間保育を実施してきた。降園時間までは室内遊びや折り紙、あるいは戸外遊び等内容に工夫や変化を持たせて子どもたちの興味を引く内容での実施を心掛けてきた。長期休暇中の延長保育期間を延ばした結果、働く保護者の支援となっている。ただ、教職員の負担がさらに増えないようにバランスを考慮し、フリーの先生を配置する等教職員の増員は前向きに検討していく。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	研修での学びを子どもたちへの声掛けや保育の流れに取り入れて、日常保育に活かしていく。
2	安全管理体制の充実	安全な園生活を提供するため、点検項目の見直しを行い定期点検を引き続き励行していく。
3		緊急時のマニュアル等を再確認のうえ整備し、地域との連携を図った訓練を試みていく。
4	保護者への発信	保護者の共通理解を得ていくため、園の方針やねらい等を分かりやすく伝えることを常に心掛けていく。
5	長時間保育の検討	保護者ニーズに応え、保護者の安心感につながる子どもを預けやすい環境を提供していく。

V. 学校関係者の評価

・各評価項目について、適切に取り組みと振り返りがなされています。

まず、教職員の資質向上については、四季折々の製作や歌を取り入れ、お遊戯会等では子どもたちの衣装もかわいらしく、先生方の指導から熱意と愛情が感じられました。

安全管理体制の充実では、月に1度の避難訓練によって防災意識が高められており、今後も継続されることを望みます。そして、色々なシチュエーション、例えば小学校と合同等で行う等が実現できればと思います。

保護者への発信の項目では、大雨洪水警報などの際、保護者への一斉メールはとても迅速に行われています。普段園バスを利用する側としては、保護者が先生と話す機会が少ないのですが、子どもの園での様子を教えてくれるお手紙をいただくこともありとても助かっています。

長時間保育の検討について、普段働いている方や所用で預けなければならない時に預けられる方にはとても助かっていると思います。実施日数が増えた分先生方の負担も懸念されますが、課題を検討しながら今後も続けていただきたいです。

< 三宝幼稚園後援会会長 >

・教職員の方々が、現場の日常業務に追われる中で十分に努力されていると感じますが、現状に甘んじることなく更なる充実と安全を目指して取り組まれている結果が出ていると思います。

保護者の方々とも、日頃から相互理解を求めて様々な発信やニーズに応える体制作りを着々と進められていることが感じられます。

少子化傾向や女性の社会進出等の社会の動きに対して、幼児教育の現場でも様々な影響が予想されますが、今後の動きや地域の状況を見据えた上で、学園のあり方を熟考し、信念を持って今後も引き続き丁寧に取り組む運営されることを望みます。

< 評議員 >

以上